

## ◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<12月> 業界の景況(前月比DI値)

新型コロナウイルスの感染数が拡大し、景況が悪化している。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和2年9月	令和2年10月	令和2年11月	令和2年12月
製造業	食料品製造業	 0	 25	 △20	 0
	木材・木製品製造業	 0	 100	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 △100	 △100	 △100	 △100
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 0	 △33	 △33
	鉄鋼・金属 同製造業	 △33	 0	 △33	 △33
非製造業	卸売業	 0	 △25	 △60	 △40
	小売業	 △33	 △33	 △50	 △60
	商店街	 △67	 △33	 △67	 △67
	サービス業	 0	 △14	 △29	 △50
	建設業	 △17	 △17	 0	 △17
	運輸業	 0	 0	 0	 0
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	「Go To キャンペーン」効果で軌道に乗るかと思われたが、新型コロナウイルス感染拡大による心理的状況と 3 密規制により行動が制限されているようだ。例年、正月イベントを見越した味噌醤油等の販売は、イベント縮小により大幅に落ち込んだ。この状況がいつまで続くのか、経営的に持ちこたえることが出来るのか非常に心配である。
冷凍業界	12 月に入り、巻き網船のサバ漁の本格的な水揚げがようやく始まった。毎年漁獲時期が遅れている。
水産練製品業界	年末需要でわずかだが良かった。しかし、新型コロナウイルスの影響は依然として続いている。
酒造業界	前月まで緩やかな回復傾向がみられたが、新型コロナウイルス感染拡大が顕著となり、業務用需要が落ち込んだ。家飲み比率が比較的小さい宮城県の清酒需要の構造を容易に変えることはできず、当分苦しい展開が予想される。
木材業界	11 月の住宅着工数は 1,453 戸で、前月比 33%増加したが、前年同月比は 10%減となった。持家、貸家、分譲全て前月比で増加した。原木は出材不足から値上がり、不足解消にしばらく時間がかかる見込み。製品の荷動きは緩やかで、価格は横這いが続くが非住宅、住宅関係とも引き合いがあり年明けに期待したい。合板は品薄感が続くが先行き不透明で、増産には慎重対応。チップは、バイオマス用は動きが順調だが、製紙用は製紙工場の生産減により厳しい状況が続く。
印刷業界	1 都 3 県への緊急事態宣言発出による各種イベントの開催制限、飲食店をはじめ経済への影響は大きく、先行きは厳しい。資金繰りを支えてきた雇用調整助成金の財源確保も不透明であり、緊急融資で調達した資金も年末から年度末にかけて枯渇し、再度融資申し込みが必要だが、金融機関の対応如何によっては事業継続に支障をきたす恐れがある。
生コンクリート業界	出荷量は、震災復興事業の終了や大型の公共事業もなく減少傾向にある。また、一部地域で販売価格の低下が見られる。県南地区は、昨年の台風 19 号被害の復旧工事で増加したが、その他の地区は減少している。
コンクリート製品業界	11 月の出荷量は、前月比 106%、前年同月比 102%とともに増加したが、4 月からの累計では、前年比 98%とわずかに減少した。年度末に向け出荷促進しなければならない。 (※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から 1 ヶ月遅れの報告です)

機械金属業界 A	前年比の売上高は、業種により多少バラつきがみられるものの、前年同月比は全体的に停滞もしくは減少と悪化傾向に変わりはない。
機械金属業界 B	売上は、前月に引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、前年比が減少した。いまだ新型コロナウイルス感染者が増加しているため、来月以降も悪化が続くと思われる。
金属加工業界	売上は、前年同月比 20%減少しているが、令和 2 年上半期より回復傾向にある。
各種卸売業界	新型コロナウイルスによる影響が大きい。
再生資源業界	鉄スクラップ価格の上昇が 12 月に入っても勢いは止まらず急騰という表現が相応しい展開で、価格は前月末より 1 万円以上上昇した。海外市況も大きく上昇しているが、コロナ禍による供給量減少が需要増を吸収しきれていない。新年から中国の製鋼用鉄スクラップの輸入が再開され、大きな影響を及ぼすことが予想されるが、天井感もみられる。 古紙は 12 月の中国の輸入制限、輸入禁止を受け、国内在庫の増加が心配されたが、市中発生量の減少と、ベトナム、インドネシア等の新規の輸出国の需要があり、価格はやや下落で落ち着いており、引き続き輸出用のコンテナ不足が問題となっている。
繊維業界	冬物商材の動きが前年の 50%以下と苦戦しており、Go To トラベルなどの追い風はあまり感じられない。福袋の予約も前年の 50%程度にとどまっている。新型コロナウイルス感染症による店舗の落ち込みが著しい。
ゴム製品卸売業界	12 月に入り、東北でも新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状況で不自由な事業展開を強いられ、さらに景況感が低下している。年明け以降、ますます低迷することが予想されるなか、再度緊急事態宣言が発令されれば深刻な状況になるのではないかと懸念している。
鮮魚卸売業界	年末商戦は新型コロナウイルスの影響で壊滅状態であったが、ネット通販と電話依頼の販売が増加した。メバチの水揚げも振るわず、良質なマグロが高値となり、卸売り、小売りともに苦戦した。
鮮魚小売業界	新型コロナウイルスの影響で魚価は低迷し、店舗売上は不振である。20 日前後は時化が影響し、漁獲量が少なく魚価は上昇したが、年末は魚価が安く売上は最悪となった。
青果小売業界	産地の台風被害もなく、比較的温暖な気候が続いたため、ほとんどの品目が順調に生育し市場内は潤沢な入荷があったものの、12 月と

	<p>は思えないほど動きが鈍かった。年末にかけ、大根、キャベツなどの一部野菜が値上がりしたが、それ以外の品目は例年では考えられないほどの相場安となった。また、Go To トラベルの一時停止により納品を中心とした組合員の年末年始に忙しさはなく、巣ごもり需要を期待した小売中心の組合員も売上げが伸び悩む大変な月となった。1 月も Go To トラベルの一時停止による影響が大きく出ると予想され、不安を感じている。</p>
家電小売業界	<p>12 月の大掃除に加え、コロナ禍でマメに掃除をする人が増加傾向にあり、掃除機への関心が高まっている。掃除の負担軽減に繋がる軽量かつパワフルな吸引力のコードレススティック掃除機が注目されている。その中でも軽量で「からまないブラシ」が好評である。</p>
石油小売業界	<p>原油価格は、新型コロナウイルス感染拡大懸念の影響で、上昇傾向にある。国内では、再び東京都などで緊急事態宣言が発令され、車の移動が減りガソリン等の消費は冷え込むとの見方が広がっている。原油相場上昇を背景に小売販売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。</p>
花卉小売業界	<p>売上は、前年同月比で 96.2%と前年をやや下回った。 店頭販売は大きな落ち込みもなく例年並みであったが、3 密回避に伴うクリスマスや忘年会といった年末業務需要が大きく落ち込んだ。 一方、葬儀需要は、年末にかけ葬儀件数が増加し、祭壇生花売上は伸びたものの、葬儀用スタンド花の売上は、新型コロナウイルスにより葬儀形式が家族葬中心になったため低調であった。</p>
商店街	<p>(仙台地区 A 商店街) 前月に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、回復の兆しが見えない。</p> <p>(仙台地区 B 商店街) 商店街の人手は、前月比 10%増加したが、新型コロナウイルス以前に比べ 20%減少した。飲食関係は、在宅ワークやテイクアウトの利用が更に進み、店の苦戦している様子が伺える。</p> <p>(大崎地区 A 商店街) コロナ禍の暗い世の中を明るくしようと Go To 商店街事業で、商店街のイルミネーションの充実を図っていたが、12 月 28 日で中断となり、Go To 予算がらみということで既存のイルミネーションも消灯せざるを得ない事態となり、より一層暗い商店街が現出してしまった。</p>
自動車整備業界	<p>整備売上の基盤となる車検台数は例年通り推移した。しかし、新型コロナウイルス感染者が日々増加しており、整備業界にも感染が広が</p>

	らないか不安である。
警備業界	<p>新型コロナウイルスの猛威は衰えるどころか激しさを増している。施設の警備業務に従事する警備員は、特に感染の脅威に敏感である。手洗い、うがいの励行、マスク着用は当たり前、常に自分自身の自己管理を徹底し、勤務日以外は不要不急の外出をしないよう徹底している。人員に限りがあるため、新型コロナウイルスに感染した場合の、代替要員の確保は極めて難しく、交通誘導警備員も同様である。今のところ、宮城県内で感染者の報告はないが、いつ感染者が出てもおかしくない状況であり、日々、戦々恐々としている。</p>
湾岸旅客業界	<p>新型コロナウイルス感染症が11月中旬から拡大し、前年同月比で旅客・売上ともにペースダウンした。特に年末は、Go To トラベルの一時停止でさらに激減し、前年同月比3割程度の減少となった。冬季は年間で最も閑散期となるため、効果的な休業も視野に入れながら、しっかりとした感染症対策と事業を継続し、ウィズコロナ時代を乗り越えていきたい。</p>
ホテル・旅館業界	<p>GoTo 事業に振り回されている。1月11日までの一時停止がさらに延長されると予想している。例年、正月明けは宿泊施設もオフシーズンとなるが、さらにその状態が悪化すると予想され、今後の展望が見えない。</p>
シーリング業界	<p>景況は、年末までの一区切りを迎え忙しい状況は変わらない。どの工事物件も予算、納期ともに厳しいことに加え、工事量の増加から人的資源が不足している。問題は、工期集中による人員確保の難しさにあり、事務所ごとで忙しさにバラつきがあり、調整のつく物件も散見される。材料の出荷量は前月比、前年同月比ともに持ち直してきているとの報告が上がっている。近々の大きな問題はやはり人手不足と安定した業務量の確保である。組合として、人材交流の定義づけを行い連携を密にして繁忙期、閑散期の対応に努めたい。各社の経営状況は、諸々の問題が山積みであるが、最新情報の発信やどのような準備・実行が必要なのか、知恵を出し合い、共有し対処していきたい。</p>
建設業界	<p>コロナ禍による各業界での経営悪化が見受けられる中、建設業の特に公共工事は、影響が少なく安定的に仕事が進められている。一方で、今後の民間設備投資や住宅等は控えられる傾向にあり、土木工事は堅調なもの、建築工事は厳しい環境が予測される。また、震災から10年の節目となる中、復興後の事業量の確保が大きな課題となっていたが、災害が頻発している環境下で、今後5年間で15兆円の別枠での国土強靱化予算が確保されたことは、未来への投資につながることも、雇用と経済の確保にも影響を与える非常に心強い施策と考える。今後も安定的・計画的な予算の確保が望まれる。</p>

硝子業界	<p>年末にガラスメーカーのリストラがの話が聞かれた。コロナ禍で先行き不透明感が増してきた。メーカー合併の話もあり不安定な1年になりそうである。</p>
板金業界	<p>12月の景況は、新型コロナウイルスの影響により引き続き悪化傾向にある。</p>
タクシー業界	<p>実車率は前年比9割程度で推移しているが、実車キロ及び輸送収入はともに前年の6割弱にとどまった。Go To トラベル・地域共通クーポンの取り扱いも低調で、年末の客数も増加せず、厳しい状況が続いている。</p> <p>LPG 価格の値上がり傾向が続いており、前月より約3%上昇した。</p>
倉庫業界	<p>売上高は前月並みとなった。入庫量、出庫量ともに減少し、保管残高は微増傾向にある。品目別では、出庫量が増加したのは一部の農産品と食料工業品である。他の品目は入、出庫量とも減少傾向にある。一方、前年同月比の売上高は減少した。入庫量、出庫量ともに減少し、保管残高は微増傾向にある。品目別では、入庫量が減少し、出庫量が増加したのは、農産物、食料工業品である。</p>
不動産業界	<p>家賃支援給付金の申請期限が迫り、管理会社の賃料実績証明書の発行も一段落した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による飲食店の営業不振は続いており、テナント解約が目立ってきた。</p>